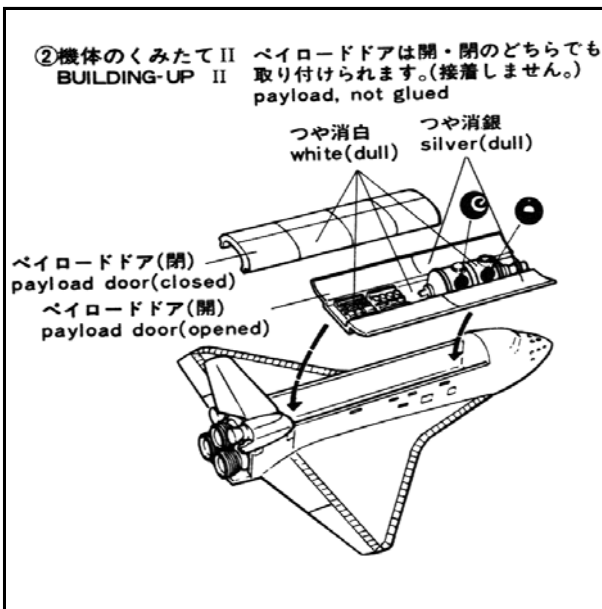


第12回 1/480スペースシャトル(ツクダホビー)の巻



前回の更新からまたもや1年以上経過してしまいました(平伏)。スペースシャトルも退役だそうで、コロンビア号の最初の打ち上げを知る世代としては寂しい限りです。当時色々なメーカーからスペースシャトルのプラモデルが発売されていたのは以前お知らせしましたが、今回はちょっと変わったメタルキットを紹介したいと思います。

スペースシャトルは当時当たり前であった使い捨ての多段ロケットではなく、宇宙船(オービター)の部分を数百回繰り返し使えるように(但し最もサイズの大きい液体ロケット燃料のタンクは使い捨て)して将来的なランニングコストを低下させるという目的の下に開発されました。従って打上げ用ロケットブースターを含めて「スペースシャトル」と呼ぶのが正しいような気がします。しかしながらオービター以上のサイズでありなおかつ造型上の「売り」に乏しいブースターを商品に含めることは高価格化につながり売り上げに好影響を与えないと判断された為か、商品の殆どはオービターのみであり国内では僅かにユニオン(現在金型は童友社)だけがブースターを立体化していました(後にハセガワからもブースター付のキットが発売されている)。



実はこのツクダのメタルキットの存在を知ったのは21世紀になってからです。当時ものが片付けの際に出てきたような感じで馴染みの模型店の一番下の棚に有りました。中身を見るとコロンビア初飛行のすぐ後に発売されていたようです。キットは主要なメタルパーツが台紙に固定されており、飾り台と液体ロケット燃料タンクはプラ製のものが付属します。大きさや重量を考えると**妥当な判断**といえるでしょうか。ツクダは当時ボードゲームの駒サイズのモビルスーツや手の平サイズのスターウォーズシリーズの宇宙船等のメタルキットを発売していた記憶が有りますが、これ以外のスケールものを作っていたかどうかは不明です。

このキットには不思議なギミックが搭載されています。オービターのペイロード(荷物室)の開閉状態を完成後も自由に変更できるのです。勿論発射台に倒立した状態でこの扉が開くことはありませんが、前述のユニオンのキットにはペイロード内部が再現されていないことを鑑みるに、店頭での差別化を図ろうとしたのかもしれませんが。

キットデータ	
メーカー	ツクダホビー
スケール	1/480
材質	ホワイトメタル
当時価格	1200円(税抜)